



10歳という年ごろ

校長

「10歳の壁」という言葉を聞いたことがありますか。小学校中学年の時期に、学習面や心身の発達面においてつまづくことをいいます。

学習でのつまずきは、小学校3～4年生あたりから学習難易度が急に上がることによって起こることが多いです。特に算数は、抽象的な概念が入ることによってわかりづらくなるケースが多いと言えます。

低学年の頃は「5個あるみかんを2個食べました。残りは何個ですか。」というようなイメージしやすい問題が多いのですが、中学年になると分数や小数を扱ったり数量関係をグラフなどで表現したりといった、イメージをしにくい問題が増えてきます。

日頃から分数や小数などの抽象概念を生活の中で意識し、学習内容とつなげてあげるとよいかもしれません。例えば、「リンゴを半分に分けてみよう。これは2分の1だね。」とか、ピザを前に「8つに分けてあるから、8分の1だね。2つ食べたら8分の2で、それは4分の1だね。」などと会話しながら食べたり、スーパーに子どもと一緒に買い物に行った時には「ペットボトルに1.5リットルって書いてあるね。500ミリリットルと合わせたら2リットルだね。」などと口にしたりしていると、分数や小数の概念が自然と身につきます。

また、この年代は「ギャングエイジ」と呼ばれ、友達との関係を重視するあまり、親や教師に反抗的な態度をとり、集団で行動することが多くなる時期でもあります。数人の仲間で行動することから、クラスでいじめを主導したり、仲間内だけのルールをつくって学校や社会のルールを守らない行動をしたりなど、マイナスな行動が目立つことがあります。

親としてはイライラすることも多いわけですが、マイナスの行動は自立に向けて子どもが「もがいている姿」と捉えることもできます。

トラブルを起こさないことは大切ですが、友達とたくさんの関わりをもち、たくさんの失敗を経験して成長することもまた事実です。私たちも皆そこを通過して来たわけです。

親として適切な距離感で子どもと関わり、感情的にならない対応が大切です。人に迷惑をかけた場面があれば、親が謝罪する姿を見せるのも大変効果的な教育です。

子どもの望ましい価値観や概念を育てるには、日常生活で、たくさん会話をするのがとても大切だと感じます。

そして、子育てを楽しむには、子ども目線で、自然体で接するのが一番です。

お知らせ

バレエ鑑賞・体験教室

1月17日（金）に、1～3年生が参加して体育館でバレエ鑑賞・体験教室を行いました。

世界的に有名なバレエダンサーの方々が目の前で踊る姿に、子どもたちはとても感動していました。その後、バレエの基礎となるストレッチやステップを実際に体験しました。子どもたちは、体験を通して柔軟性が重要だと感じていたようです。最後に、先生たちが衣装を着たバレエダンサーの方々と一緒にパフォーマンスをしました。



避難訓練(地震・火災)



2月10日（月）に、地震の後に火災が起こる想定での避難訓練を行いました。

今回は予告なしで実施しました。よりリアルな状況での避難となり、職員室からの出火を想定したため、校庭と体育館駐車場の2カ所に避難をしました。

1年生 家庭教育学級

1月21日（火）に、体育館で親子給食を行いました。子どもたちが事前に絵を描き用意していたランチマットに給食をのせ、親子で楽しく食事をする姿が見られました。

また、同日に食育教室と家庭教育学級校内閉級式も行いました。食育教室では、野菜の話を中心に講師の先生から教えていただきました。

たくさんの方の保護者の方にご参加いただき、充実した学習会になりました。



6年生 平和教育



1月28日（火）に、ピーススタッフ旭の方々をお招きして、平和教育に関する授業を行いました。

旭市に残っている掩体壕(えんたいごう)や慰霊碑の説明、東京大空襲を経験した方が作った紙芝居を見ながら当時の様子を聞きました。子どもたちは、「悲しみしか残らない戦争は二度と起こらないほしい」という思いをもったようです。

ホームページでは、学校だよりをカラーでご覧いただけます。

右のQRコードもご活用ください。

<http://www.edu.city.asahi.chiba.jp/es-asahichuou/index.html>

